

チラシ概要

21世紀 希望の人権展
かけがえのないあなたがいる

この展示は「子ども」を対象にした国連の人権教育のための世界プログラムを支援する企画です。
あらゆる人権課題を解説しつつ、人権に関する世界の貴重な資料、芸術品を公開します。
国際連合広報センター、ユニセフ駐日事務所、日本ユネスコ協会連盟が後援しております。
入場は無料。

<みどころ>

1 一流の技、美しい魂に会える。
障害や偏見を物ともせず、生きることへの限りない情熱がこもった、一流のアーティストが一同に。全盲のイラストレーターのエムナマエさんの作品、チカupp美恵子さんのアイヌ文様刺繍、「アウンサンスーチーに贈る」ウェイン・ショーターの直筆楽譜などが出品。

2 心ふるえるストーリーに会える。
平和への熱い思い、人を愛する気持ち、人間としての誇り…湧き上がるエネルギーが歴史を動かした。「世界人権宣言」草稿やマルチン・ルター、ヤヌシュ・コルチャック、ガンジー、エレノア・ルーズベルト、キング牧師、ヘレン・ケラーなど、人権のために闘ってきた世界の偉人たちが遺した直筆、貴重本を展示。

3 無限の希望に会える。
リベリアの少女が新聞紙に描いた絵や、難民キャンプで暮らす人たちがタイヤから作ったサンダルなどを展示。

4 世界のあらゆる人権問題をコンパクトに紹介。
女性、子ども、先住民族、生まれ、外国人、障害者、高齢者、同性愛、貧困、飢餓、医療、HIV／エイズ、環境問題、野宿生活者、自殺、紛争、難民、地雷、テロなどの問題を扱っています。

5 視覚障害者も共に遊べるイランの絵本など約 400 冊の絵本が手に取れる「心に響く物語」コーナーもお楽しみください。

はじめに

この展示の主人公は来場して下さった皆さんです。

人権を通すと色々なことが見えてきます。
それは自分のことを真正面から考えることであり、温かい家族、深い友情、国と世界の正しい在り方などへ目を向かせてくれます。

ときに涙する現実もありますが、人権をしっかり胸に刻んだ人は、本当の意味で無敵です。
恐れるものは何もありません。
そこには明るい希望の光があるからです。

「一番苦しんだ人が、一番幸福になる権利がある」
この言葉をもって展示を始めたいと思います。

プロローグの出品物

人権の基本文書となった「世界人権宣言」草稿23枚は、その中心的起草者であったカナダのハンフリー博士より池田SGI会長に寄贈されたものです。
加えてこのコーナーでは、321言語に翻訳され、ギネスブックにも公認されている「世界人権宣言」を50インチのタッチパネルで表現。地図上で、その言語をタッチすると、その民族の文字で、世界人権宣言が華麗に表示されます。
その他、宗教改革者であるマルチン・ルターが記した1521年の発禁文書、インドの非暴力運動の闘士であるガンジーの牢獄で書いた手紙、死刑廃止を訴えたフランスの文豪であるヴィクトル・ユゴーの著作「死刑囚最後の日」などを出品。
時代を動かした人権の闘士の熱い鼓動が伝わります。
世界のジャズ界のカリスマといわれるウェイン・ショーター氏が、ミャンマーで軍事政権と闘うアウンサンスーチーさんに贈った楽曲の直筆の楽譜も出品します。
また、日本の反骨のジャーナリストであった桐生悠々の軍部政府を批判した信濃毎日新聞の記事も出品。彼はこの記事を書いて軍部の怒りを買って、新聞社での地位を追われました。戦前には、約1200もあった日刊紙が、1942年には5社に統一されるなど、言論統制は悪化の一途をたどっていくなかで、彼は諦めることなく、軍部批判の筆を執り続けました。

P03 人権はいつもそばに

このコーナーは世界人権宣言を分かりやすく要約しました。

みな平等！差別は許されない！
生きる権利がある！
奴隷にはならなくていい！
残酷な刑罰は受けなくていい！
裁判を受ける権利がある！
むやみに捕まったり、追放されることはない！
公平な刑事裁判を受ける権利がある！
プライバシーや名誉は守られる！
住む場所の自由がある！
亡命・帰国の自由がある！
国籍をもつ権利がある！
結婚・離婚の自由がある！
財産をもつ権利がある！
思想、宗教の自由がある！
表現の自由がある！
平和に集り、グループを作る自由がある！
代表者を通じて、政治に参加する権利がある！
平等に公務員になれる権利がある！
職業を選べる自由がある！
失業に対する保護を受ける権利がある！
休息と余暇をもつ権利がある！
教育を受ける権利がある！
芸術を鑑賞し、科学の恩恵にあずかる権利がある！
著作者の利益は保護される権利がある！
人間が大切に扱われる社会にのみ人は義務を負う！

女性のコーナーの出品物

女性の権利を主張し、国連人権委員会議長として世界人権宣言作成に貢献したエレノア・ルーズベルトが、息子にあってた心温まる直筆の手紙やサイン入りの初版本、19世紀に世界で初めて女性の完全な参政権を実現したニュージーランドのケイト・シェパードの関連の品々を出品。
また、当時22才だったベアテ・シロタ・ゴードンさんが、日本国憲法に、女性の権利を盛り込んだ、タイプライターによる下書きも出品。日本で暮らしていたベアテさんは日本女性も社会で大きく活躍してもらいたいという願いをこめて、世界中の憲法を参考に、日本国憲法のたたき台を作成しました。女性たち自身の手によって歴史が大きく動いてきた様子が伝わります。
さらにタイの山岳民族の女性が手作りし

た、リス族とモン族の民族衣装を着た人形を出品。リスとは「高貴」という意味をもち、タイの少数民族の中でも最も華麗な存在。モン族は頭脳明晰で何事にも挑戦を忘れない特徴があると言われています。

その他、人身売買の被害にあった女性がリハビリのために作った小物など、人間にはどんな状況からも立ち上がる、強い生きる力があることを感じさせる物品も公開しています。

P12 ジェンダー

「オンリーワン・パワー」で行こう

男らしいって何？
女らしいって何？
親らしいって何？
こどもらしいって何？
先生らしいって何？
学生らしいって何？
自分らしいって何？
人間らしいって何？

小さい頃から身についた
いろいろな「らしさ」がある

時には自分を守るための「らしさ」
時には自分をしぼりつける「らしさ」
「らしさ」を一枚一枚たしかめて
「らしさ」を一枚一枚脱いでいったら

最後に残るのはなんだろう？
最後に残るのが本当の自分かな？

こんのひとみ著『心の言葉 4』

<ジェンダー平等>

はっきりとした理由もなく、「女らしさ」「男らしさ」と思われている意識をジェンダーと呼んでいます。「らしさ」を強要するのではなく、世界でたった一人のかけがえない存在として、可能性を十分に発揮するため、ジェンダー平等が世界の指標になりつつあります。

<ジェンダー差別>

「育児は女性の役割」という考え方が根強くあるために、妊娠すると女性は退職しなくてはならないような雰囲気があります。「女性である」ために経済的自立が難しい、自分の人生は結婚した相手の男性次第で決まるという状況では、人権が保障されているとはいえません。男性もまた役割に縛られて、きゅうくつに感じています。

<「みんな違う」から美しい>

「桜梅桃李」という昔の言葉があります。桜は桜、梅は梅、桃は桃、李は李—それぞれ美しさがあるように、人という花も「みんな違う」から美しい。自分らしい輝きを放つため、自分にしかない人生の道を、胸をはって歩いていくために世界の各地で「オンリーワン・パワー」を引き出す、エンパワーメント運動が広がっています！

<「エンパワーメント運動」とは？>

一人ひとりのいのちが大切にされる。自分らしさを発揮できて、それに対して公正に報われる。未来に希望を見出せる。チャレンジできる環境が整備されている。女性が自信をもって生きていけるように多くの人々や団体によって、文字の読み書き、健康で安全に暮らし、経済的に自立できる方法などを教える活動が進められています。

P13 女性の雇用

新時代の女神たち—
ネオ・ヒロイン続々登場！

女性たちは常に変革に挑戦している。しなやかに、したたかにそして確実に新しい時代を切り開いている

子どもが産まれた。
「退職はいつ？」と上司や周囲に聞かれた。
「退職の理由になりません。これからもしっかり働きます」
周囲の目は冷たかった。裁判になりそうな時もあった。
けれども彼女は仕事を着実にやりぬきなくてはならない存在になる

同期で入った男性よりも昇進の遅れた理由を専務に聞いた。
専務は「育児休暇で6ヵ月いなかった分です」と言った。
彼女は答えた。
「国が決めた休みです。勝手に休んだわけではありません」
6ヵ月後、彼女は昇進。
やがて大手企業の取締役になる。

12年目の人事異動—配属になった部署に仕事がなかった。
でも人一倍、勉強した。
上司に言った。
「男性と対等の仕事を下さい」
上司は驚いて言う。

「何がそんなに不満なの？ あなたが来て一番よかったことはお客様が来たときにお茶を出してくれること」
専務に勇気を出して現状を打ち明ける。
「今の部に自分の道はありません」
数ヵ月後、彼女は中枢の企画開発部に異動になる。

<まだまだ少ない、女性リーダー>
女性の社会進出度を示す国際的な基準、「ジェンダー・エンパワーメント指数」の日本順位は世界44位。年々、他の国に追い越されています。「女性は、管理職には向いていない」「どうせ、結婚して退職するから大事な仕事は任せられない」などの決め付けで、責任ある立場を任せないなどの間接差別が地位向上を遅らせています。

<「男は外、女は家庭」だけの時代の終焉>

いまや、国際社会では女性の人権がどれくらい保障されているかが、その国の成熟度を示す重要な指標。そこで日本も男女平等社会の実現を21世紀の最重要課題としました。問題解決の場も行政が用意し始めましたが、普及率はまだ低いようです。産まないことや、結婚しない女性などに対する偏見や差別もセクシャル・ハラスメントの原因になっており、社会で女性が活躍する道を阻んでいます。

P14 女性に対する暴力

悲しみの迷宮の彼方へ

閉じ込められていた
朝目覚めると彼女は思った
今日こそ何か変わっているんじゃないか
でも、何の変化もなかった

いつも誰かの力で動かされているようだった
頭上で鳴り響く、罵声の嵐
振り上げたこぶしが生み出すちいさな竜巻
痛みという感覚はすでに消えていた

「違う、これを耐えた先には何も無い」
そう思った
このままでは、自分がなくなってしまう

彼女がふとみつけたもの、一枚の絵はがき
「絵を描こう」
久しぶりに自分の意志で何かを決めた指先にまで伝わる“生きている”という感触

楽しかった
自分で決めた事を一つ一つ
大切にしていこうにした

暖かく支えてくれる人もできた
「大丈夫、あなたは悪くない」
少し自信をとりもどせた
「生きている価値があるのだ」
そう思えた

警察に連行される夫
「妻を殴って何が悪い」
それが彼の最後の言葉だった

<奪うこと、それは人権侵害>
女性への暴力は相手の人生の夢や希望や未来までも奪う人権侵害です。「口で言って分からないなら殴ってでも分からせる」「女は黙って男についてくればいい」などの「暴力を肯定する文化」ともいべきものが、多くの男性と女性の考え方にこびりついてしまっていることが原因です。

<まだまだある！>
世界の女性に対する暴力は性暴力、人身売買などもあります。売買された多くの女性は虐待や拷問の被害にあっています。先住民族、難民、移民、農村、貧困地域、障害を有している、高齢、紛争下の女性など差別された特定のグループにいる女性がより深刻な被害にあっています。

<女性の権利、最大の挑戦へ>
女性に対する暴力が人権問題であることが世界で認識されるようになったのは、1990年代。これからの最大の挑戦は「女性の権利」を侵害する有害な文化的、伝統的習慣と闘うことだと言われています。

<世界は動き出す>
国連では「女性に対する暴力」は最優先に取り組む人権課題とされ、犯罪として取り締まる法律の強化を各国に要望しています。日本は2001年にドメスティック・バイオレンス防止法を制定。被害を警察に届けることができます。女性の自立を支援する相談所や一時避難場所も各都道府県に設立されました。

P15 世界の女性のデータ

<「世界初」の女性たち>
1 ケイト・シェパードをリーダーとした草の根運動により、ニュージーランドでは1883年に女性の完全な参政権が実現した

2 1999年にスウェーデンでは女性が閣僚全体の半数以上になった

3 GHQ 民生局員の当時22才の女性、ベアテ・シロタ・ゴードンさんが日本国憲法の草案作成に携わり、女性の権利を守る14条、24条制定に尽力した

<女性と子どもの人身売買>
世界では年間、60万から80万人の人身売買取引が行われています。そのうち、80%が女性と子ども、50%が特定のグループというマイノリティの女性です。女性は表向きはウェイトレスやメイドとして雇われ、それから売春などをさせられています。

<日本の女性リーダーはまだまだ少ない！>
女性が政治や経済、社会活動の場で意思決定にどれくらい参加しているかがわかる数値として、ジェンダー・エンパワーメント指数があります。具体的には、国会議員、専門職、技術職、管理職などに占める女性の割合で、日本は世界で44番目です。

子どものコーナーの出品物

子どもの意見を表明する権利を、世界でいち早く実践していた、ヤヌシュ・コルチャックの著作『マチウス1世』の1945年にアメリカで出版された初版本を公開。ユダヤ人だったコルチャックの作品は当事、本国のポーランドでは、禁書扱い。1945年という第二次大戦の混乱の中、子どもが国を治めるという、子どもを主役にした作品がアメリカで翻訳され、イラストも入れて出版された大変に貴重なものです。コルチャックは子どもが自発的に運営できる孤児院を設立し、中には子どもが裁判官の裁判所もありました。彼の孤児院のユダヤ人の子どもたちが、ナチスによって、ガス室に連行される時も、彼は子どもたちに「ピクニックに行こう」と呼びかけ、共に死んでいきました。他にもコルチャックが尊敬してやまなかった教育の父と言われるスイスのペスタロッチの直筆の手紙や貴重な当時の書籍も出品します。さらに、かつて兵士にさせられていた子どもやストリートチルドレン、両親をエイズによって失った子どもをはじめとして、世界の子どものたちの絵画も多く展示しています。

P22 世界の子どもの現状

ちきゅうのうた

この大地で、たくさん子どもたちが夢をみている
音楽、絵、サッカー、野球、実業家、宇宙…
けれど、涙を流している子どももたくさんいる
あらゆる問題のしわ寄せが子どもにいく
ある時は親が貧しくて
またある時は
子どもの純真さを利用して

ある子は戦争が起きて、両親を殺され
村から逃げようとしたら兵士に誘拐された
彼女は12歳で、名前も知らない兵士の子どもを産んだ
小さい赤ん坊を背おって、銃を持たされ
兵士として戦場に行かされた

ある子は「お金を稼ぐまで戻ってくるな」と親に言われて
道路の片隅で暮らしていた
持ち物は毛布1枚
ゴミをひろってお金にかえた
学校には行けなかった
学校を知らなかった

ある子は親が病気で働けず、生活のために小学校に入る前からじゅうたんをつくる工場に働いていた
工場長は「おなががすいているほうがねむらずによく働ける」と
食事を一日1回しかくれなかった

悲惨な現実には圧倒され
自分に何が起きているかもわからなくて
ただただつらくて涙が出てしまう

子どもたちは、わずかな楽しみで気を紛らして、一日を乗り切る
道端に咲く黄色い花を、ほこりと泥がこびりついた髪の毛に飾る
ゴミの山の中から絵本をみつけて、読める文字を探している
ダンボールをまるめて作った塊を
サッカーボールのように蹴って遊ぶ

この子たちには「今」がない。未来の夢も描けない
今日も疲れて子どもたちが、小さい体を丸めて眠る
その子たちが微笑む夢をみるように
ちきゅうが静かに回転した

<学校に行けない子ども>

今、世界には、学校に行きたくても行けない子どもたちが1億2100万人以上いるといわれています。理由は、学校で差別や暴力を受けた、女の子だから、家の仕事を手伝わなくてはいけない、学校をしらない、学校が遠い、先生がいない、教科書や学用品がない、などです。

P23 世界の子どもデータ

2005年、18歳未満の世界の子どもは22億人、そのうち貧困な状態で暮らす子どもは10億人、十分な住居のない子どもは6億4000万人、学校に行けない子どもは1億2100万人以上います

2002年の国連子ども特別総会で、子どもたちは世界の指導者たちに、何を望んでいるかを告げました。それは、貧困、虐待や搾取、戦争を終わらせること、教育や社会参加の提供でした

正確な数は不明ですが、確認されているだけでも30万人の子ども兵が存在し、少なくとも36の武力紛争に子ども兵士が参加したことがわかりました。

2001年のデータで、ジンバブエ、ボツワナ、ザンビア、スワジランド、ケニア、レソト、ウガンダでは、エイズで親の一方または両方を失った14歳未満の子どもが50%を超えています。

P24 いじめ

未来はかならずある

クラスみんなに無視されています
みんなが自分を笑っているようで、こわい
自分にも何か原因があるのかもしれない・・・

学校は地獄
半年、学校に行かなかった
人間以下の仕打ちにあい、味方がいない
苦しくて、苦しくて、いつ死のうかとおもいました

だけどがんばったよ
自分をうけいれてくれる人がいたから・・・
うれしかったから
信じてくれる人のために
それと自分のために負けない
絶対に

<いじめ社会、日本>

いじめは、不登校、転校、退学など、子どもの社会での居場所を奪ってしまうばかりでなく、いじめられた子どもを死に追いやる場合もあります。世界でもいじめの問題はありますが、学校や家庭におけるいじめの一般化、いじめによる自殺が多い社会は日本以外にありません。

<いじめを考える8つの言葉>

- 1 いじめている側が百パーセント、千パーセント悪い
- 2 ひとをいじめていい理由など、絶対にない
- 3 ひとをいじめる人間は、そのとき、自分の心が死んでいる
- 4 ピンチのときは親に迷惑をかけてもいい
- 5 いじめられる側にも原因があるというのは間違い
- 6 どんな場合でも絶対言ってはいけない言葉がある
- 7 「無視」だって人の心を傷つける「暴力」です
- 8 暴力を「強い」というのは錯覚

<増える不登校>

いじめを受けたり、居心地の悪さを感じて学校へ行けなくなる子が増えています。国公私立の小中学校において、10人に1人以上が不登校になっています。その子の不安、恐怖、不信を丸ごと抱え、取り除いていく、周囲の関わりが重要です。

P25 虐待

わたしの涙はいつも氷のようにつめたかった
お父さんに殴られて、蹴られて、体をちいさく固くまるめていた
「役立たず」といつも呼ばれた
買い物に行くふりをして、道端で静かに泣いた
泣けば泣くほど、こころが冷えていくように感じた
いつしか、うれしさも悲しさもなくなるようにした

「そうだんじょ」という人と何度も話をしたある日、その人は言った
「あなたは、悪くないよ
殴ったり、蹴ったりされてもいい人間なんてどこにもいないんです」
その言葉は会うたびにくりかえされた

その人は今日もまたわたしに言った
「あなたは悪くないです。あなたが本当にそう思うまで、100回でも言うつもりです」

涙が溢れて、止められなかった
その涙はあたたかかった
温かい涙もあるのか・・・と思った
心の中も春のひだまりのようにあたたかだった
「生きてもいいんだ」
そう感じた瞬間だった

<「家族」というシステム崩壊のなかで>
虐待という行為は決して許されるものではありません。本来、安心・安全であるはずの家庭のなかで、子どもが虐待を受けることによって、長期間にわたり心理的に深刻な影響を受けています。信頼したいと思っている大人から暴力を受けて混乱し、自分が悪いのではないかと自己を肯定できなくなります。しかし、虐待をしてしまう親もまた追いつめられています。親自身が子どもの頃十分に甘えられるような環境でなかった場合や不安定な婚姻関係など、自らのストレスを弱い立場の子どもに向けてしまう場合があります。子どもへの保護と同時に、親へのケアも忘れてはなりません。

<虐待とは？>

- 1 身体への虐待(暴力)
- 2 性的な虐待
- 3 放置、子どもを守らない。具体的には、医者に連れて行かない、十分な栄養を与えないなど
- 4 心理的な虐待。具体的には「死んでくれればよかったのに」「出来そこない」など言葉による脅しや無視や拒否的な態度、兄弟姉妹間の比較なども。

P26 子どもの意見表明

子どもたちの大きな願いと情熱は世界を動かしはじめている

国連子ども特別総会で集った世界の代表の子ども、400人は誓い合う
「わたしたちは、世界がすべての人々にとってよりよい場所になるための闘いに、心を一つに団結していきます」

アフリカ代表のイボンヌは13歳
彼女はケニアのストリートチルドレンの教育支援に取り組んでいる
「子どもが認められる世界になるといいと思います」

カナダに住むクレイグは
「児童労働のひどさをうったえていた少年殺される！」
という新聞記事の見出しに釘付けになった
次の日彼は学校に行って同級生に呼びかけた

「苦しんでいる子どもたちを助けるには
ぼくたち子どもが立ち上がるべきだと思う」
彼と友達は、子どもたちだけで運営する
NGOを立ち上げ
やがて45以上の国に支部が発足した
クレイグは語る
「行動しようという声が僕を前へ前へと駆り立てる」
「その変化は、僕たち1人1人の中から始まる」

“自分の中に変化の力がある”
子どもたちは、そう感じている

<子ども参加・意見表明権>

1989年、国連でつくられた「子どもの権利条約」では、子どもには、「自分の思いや願いを自由に出しながら大きくなる権利」がある。おとなには、「子どもの願いや思いと真剣に向き合う義務がある。」と定められました。子ども参加のとりくみは、子どもの権利を守る上で、最も重要なことだという認識が世界に広がっています。国レベルで意見表明ができる子ども議会も欧州諸国を始め、アフガニスタンやヨルダン、タイなど各地で次々と設置されています。子どもとともに活動しているNGOも増えつつあります。

差別のコーナーの出品物

三重苦の障害を乗り越えたヘレン・ケラーの最初の著作である『楽天主義』の直筆サイン入り初版本。サインは美しく整ったブロック体の筆跡です。ヘレン・ケラーはこの書籍を大学時代に執筆、希望と輝きにあふれる彼女の思想にアメリカ、イギリスの二つの大学から学位が贈られました。
他にも現代の一流のアーティストによる作品も集まりました。
日本の先住民族であるアイヌ民族の現代的刺繍家であるチカップ美恵子さんは、花や泉、自然の美しさを、鮮やかに優しく表現しました。
全盲のイラストレーターであるエムナマエさんは動物をモチーフにした心あたたまるイラスト画を出品。犬、猫、ネズミや色々な動物が一本の長いマフラーを分け合い、体も心も暖まるような作品「一本の長いマフラー」や、背中に羽をつけた鯨が優雅に星の輝く夜空を飛ぶ作品「スターライトホーム」など、見る人の心をなごませ、優しい気持ちにさせてくれます。
イラン人として初めて東京芸術大学に入学した陶芸家・サブーリさんの作品は、本人が得意とするイラン書道をモチーフ

にした文様入りの絵皿や、動物をイメージして造られた花瓶や置物は、各国で高い評価を得ています。
自閉症は一つの個性に過ぎないと思わせる佐々木卓也さんは、ときに力強く、ときに愛らしく、ときに祈りのこもった造形作品を生み出してくれました。
その他、沖縄の明るく、鮮やかな色彩が魅力の琉球びんがた染物や在日ブラジル人が描いた絵やサンバ楽器、被差別部落地域だった大阪浪速区で製作された太鼓など多種多様な展示品が揃いました。特に楽器は手にとって頂くことができます。

P32 生まれによる差別

しあわせの連鎖へ

当時17歳の少女は愛し合う男性と結婚できなかった
彼は結局、自分と同じ身分の女性と結婚したのだ
彼との子だけが彼女の元に残された
父親の名を名乗れない、市民権のない子だった
彼女の身分は「バディ」一売春が仕事だった
身分にしばられた社会で生きる彼女には
それ以外の仕事が無かった
しかし、NGOの援助もあって、彼女は八百屋を開店できそうだ

成長した彼女の娘は語る
「高校を卒業したら、母と一緒に住もうと思います
母はこれまでつらい思いをしてきました
私は将来、看護師になって人のために役立つ仕事がしたいです
そして母を助けてあげたい」

母は語る

「私たちバディの女性に必要なのは技術や雇用機会を得ることと、人間の尊厳です」

だれもが平等に受け入れられる社会こそ人間の社会だ
母娘の挑戦は続く

<生まれによる差別>

生まれによる差別には、肌の色で差別する人種差別、職業や身分が生まれながらに決まっている社会の仕組みによるカースト差別があります。特にカースト差別は、インドやネパール、アジア、アフリカ、そして日本でも「部落差別」として現在まで存在しています。このような差別を受けている人は世界で約2億5千万

人います。体の触れ合いや公共施設の利用、教育、自然災害時に必要な物資の割り当てにさえも、差別をされています。「穢れ」は伝染するという偏見のため、異なった身分間の結婚は忌み嫌われており、見せしめのため公開で殺される場合さえあります。また、借金の返済のため一生を奴隷同然の立場で生きる人もいます。

P33 先住民族

すべての伝説はここから生まれた！

世界にまだ「国境」なんていう線がない時代

人々は太陽や森や川と対話をしながら生きてきた

命という言葉が全てをやさしく包む中
人は自然から「生きる力」をもらった

そうだ、僕らの中にある「生きようとする力」
それは地球の全ての生命とわかちあっているものなんだ

忘れてないか？

世界は「不思議」という名の一つのアイランド

紺碧の海に浮かぶ太平洋諸島のひとびとは
地図もコンパスも使わずに500kmを超える航海をする

七色のオーロラの下で生活するイヌイトのひとたちは
記憶だけでほぼ正確な地図を書くことができる

地球の半分以上の森林をもち、世界の大半の生物と
共生するアマゾンの先住民族は
6500種類の植物を薬として使うことができる

今も大切なことを忘れないひとたちがいる
大切なことを守るために闘うひとたちがいる

「我々の言葉で、『生きる』ことは『呼吸』と同じです

宇宙の全ては呼吸しています
宇宙の全てと呼吸を共有しているのです」

<国家が誕生する前から住んでいた>
先住民族とは、国家が誕生する以前から、その地域に住んでいる人々のことで、自然とともに生き、驚くほどの多様性を秘めています。言葉の違いや文化の違い、また住む地域によって 5000 のグループがあり、世界 70 ヶ国で 3 億 7 千万人いると言われています。

<先住民族の権利実現にむけて>
現在、世界中の先住民族が団結して国連などの国際社会の場で、自分たちの権利を守るために、戦っています。着実に国際社会に先住民族が受けた被害が認められており、1995 年に先住民族の権利に関する宣言の草案がつけられています。2005 年～2014 年は、第 2 次国連先住民族の 10 年に指定され、権利条約草案の実現に向けて、侵略した側の国家と先住民族の代表が議論を交わしています。

<共通の問題>
先住民族は共通する問題を持ちます。それは、国家が利益を満たすため、生活の土地が侵略され、奪われていることです。手段は時として、武力によることもあります。先住民族にとって土地とは、先祖から代々伝わってきたもので、自然に対する信仰や、神話、儀式、言葉など人間形成を育む上で、大きな意味を持っています。土地が奪われるということは、居住の環境だけでなく、自分のルーツを失い、侵略した国家の中に組み込まれていくことなのです。

<多民族国家、日本>
日本にはアイヌと沖縄(琉球)の人々が暮らしています。先住民族・アイヌの人々は主に北海道に住んでいます。現在もアイヌと公表することで、周囲から差別をうけている人々もいます。琉球は、17 世紀のはじめに薩摩藩から侵略をうけて以来、学校での琉球語の使用が禁じられていました。戦争期、日本で唯一地上戦が行われた地域でもあり、琉球語を話すことで日本軍からもスパイとされ、拷問、虐殺が行われました。現在では、日本の米軍基地の 75% が集中しており、騒音や環境破壊など様々な問題があります。

P34 外国人

人間としての目覚めの大地へ

見上げた空はなつかしい故郷にもつながっている
だから、どんな時も顔をあげて生きてい

こうと思った

ブラジルで生まれた少女が
両親のふるさと、日本にきた
学年が合わないと言われ、高校に入学できなかった
日本語がわからない、つらい年月が過ぎる
志のある日本人の友達とボランティア活動をする中で
半年くらい経ったある日、急に日本語がわかるようになった
通訳として日本の会社で働いた
4 年後、上司は在日ブラジル人の一番の理解者となった
「今いるこの場所を、どんな国の人でも住みやすい場所にしていきたい」
彼女の夢は更に広がる

「今日も新しい漢字を覚えたよ」と誇らしげに少年は微笑んだ
日本語がよくわからないお母さんのかわりに必死で漢字を勉強している
タイから出稼ぎに来て日本で結婚した両親
しかし、お父さんは強制送還され、母は小さな息子と取り残された
少年はボランティアの協力で、小学校に入学
お母さんに日本語の本を朗読してあげるのが、彼の日課だ

在日コリアンとして日本の大学に学ぶ女性がいた
中学時代に朝鮮民族が日本人から受けた非道な歴史を知り、怒りに燃えた
しかし、大学の創立精神「平和のフォートレスたれ」に共鳴し、入学
反面、日本に同化していくのは背信行為ではないかという葛藤もあった
そんな時、尊敬する師より励ましの言葉
「大事なことは、未来に向かって、皆が幸福になるために、いかに生きるかです」
彼女は決意する。ここが、私の人間としての目覚めの大地だ

<ニューカマー>

現在日本には、188 ヶ国、197 万人の人が生活しています。このうち、在日コリアンを除いた外国人をニューカマー(最近来た人の意味)と言います。日本では、外国人に対する差別を禁止する法律がないため、出稼ぎにくる外国人労働者とその家族に対して差別が存在しています。言葉の違いにより子どもの教育が受けにくい現状もあります。さらに、不法労働者に対しては、一層差別の度合いが厳しくなり、人格を無視する暴言や不当

解雇や賃金の不払い等が公然と行われています。

<在日コリアン(北朝鮮・韓国)>
日本には、約 60 万人の在日コリアンがいます。1910 年、日本軍の朝鮮半島の侵略から 1945 年の戦争終結まで、生活の糧を求めて、また、軍需産業や従軍慰安婦を含むその他の労働力として、強制的に日本に連れてこられた人びととその子孫です。多くが日本で生まれ、育ち、日本語を話し生活しています。植民地時代の政策により日本名をつけられた背景から現在、約 90% の在日コリアンが日本名を名乗っています。これは周囲の偏見と差別を感じて本名を明かすことが出来ない状況を示します。また、第二次大戦の後、日本国籍が剥奪され、外国人として扱われたため、指紋採取の義務付け、年金、教育、職業、参政権等の制約があり、現在でも制限の一部が残っています。

P35 障がい者

心は飛翔する

からだの奥底から渾身の力を出して生きてきた
歩くことも、食べることも、手をたたくことも、笑うことさえも時には必死だ
「流されるままに」なんて、気楽なこととは言ってられない
だからこそ、一日一日がかけがえのないものに感じる

「障がい者は弱いのではなく、本当は強い！」
そう話す姿は自信に満ちている
聴覚に障害をもつため、就職活動で即座に採用対象から外された
「なにがあっても、諦めるな！」
父の励ましで、就職を果たす。48 社目の会社だった

小児麻痺になり、身体障害をもって生まれてきた
コンプレックスで下を向いていた日々
生きる意味がわからなかった
27 歳の時、尊敬する師匠の言葉で蘇生する
「困難を乗り越えて、同じ境遇の人を励ましていく使命がある」
「この体が宝物なんだ！」と心のそこから思えるようになった

「精神病なんて、弱い人間のなるものだ」と蔑まれた
自分にしか聞こえない声に恐怖を覚え、夜も眠れなかった

「世界のすべての人が敵になっても私は味方です」
暗闇に光がさすようだった
足取りは重いかもしれない
けれど、歩んだ距離はなによりもかえがたい

< 偏見の枠をはずす >

障害を理由に、「自分がしたいと思ったこと」が出来ない状況があります。その範囲は移動・教育・住居・就職の制限、給与の格差、日常生活に必要な情報の不足、施設における隔離・虐待、様々な人との触れ合い、恋愛・結婚での差別などがあげられます。これらは、他人の協力や受け入れる社会環境があれば解決できますが、障害に関する無知や無理解によって生まれる偏見が改善を阻んでいます。

< 同様の問題「高齢者」 >

現在、日本では 65 歳以上の高齢者が 2566 万人(総人口の 20%)にのぼります。定年後、経験、能力、技術や意思があるにもかかわらず、年齢を理由とした就職差別をはじめ高齢者の社会参加が阻まれ、生きがい失われています。また、年をとるとともに運動能力が落ちたり、新たな障害を持つことから、問題の多くが障害者と共通しています。特に、介護施設における不必要な子ども扱いや拘束、身体的・精神的虐待など高齢者の人格が傷つけられています。

P36 性的少数者

自分自身を生きることへの よろこび

耐えられなかった

本当の自分を偽って生きること
周囲に何を言われるかわからない
でも、踏み出そうと思った
体も心も自由に呼吸してみたい。そんな気持ちだったから

「ぼくの好きな人は男性です」

「体は男性だけど、心は女性なんです」
「性欲そのものがない。恋愛感情自体がわからないんだ」
「私の体、30 才まで女性だと思っていたけれど、その後体が男性化していきました」

一人、一人にゆっくり、着実にカミングアウトしていった
心の衣をはがす度、本来の自分がよみかえる

胸をはってある人は語る

「女性で生まれたけど、自分をはっきり

言える。男性だと
それでいいと思えた時から、それを周囲に言えた時から
もっと生きよと思えるようになった
男性、女性の前に一人の人間として、自分らしく生きていきたい」
その姿は何よりも美しく力強い

ありのままの自分を大切に、初めて、他人を大切にすることができる
他人と違う自分を認めて、初めて、他人の違いを尊重することが出来る

その人を囲み、感動と賛同の拍手を送る
あたたかな人たちもまた輝いていた

< 同性愛・性的指向 >

性的な欲求の対象が同性に向くことを同性愛といいますが。異性に向くことを異性愛、両方に向くことを両性愛、どちらにも向かないことを無性愛と呼びます。この方向性のことを性的指向と総称し、自分の意志や他者の働きかけで変えることは出来ません。世界保健機構は、「同性愛はいかなる意味でも障害とはみなされない」と宣言しています。

< 性同一性障害 >

肉体的な性と自分が考える内面の性が、反対の性であるか、もしくは、ゆらいている場合、性同一性障害と呼ばれます。同性愛と性同一性障害は全く関連性がなく、性自認が女性の場合、性的指向が男性であれば、肉体的な性に関係なく異性愛になります。日本では 2004 年に、「性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律」が施行され、性転換手術を行った 20 歳以上の人に対して、婚姻をしていない、子がいないことを条件に戸籍の変更が認められるようになり、その人であった処置が病院で受けられるようになっていきます。

構造的暴力のコーナーの出品物

アフリカのルワンダ共和国の人々が、バナナの皮で作った、象、キリン、サイの人形。ルワンダでは、バナナは生活になくはないもの。バナナの中身は主食に、樹脂や葉は乾燥させてリーフカード、かばん、コースター、財布、人形、草履など多種多様な工芸品に。このような工芸品を市場などで販売し、生活の支えとしています。

中央アフリカの HIV とともに生きる人達やエイズで両親をうしなったエイズ孤児とよばれる子どもたちの支援を行う民間団体の協力で、HIV とともに生きる女性たちがつくったテーブルクロス。子ども

や女性たちは裁縫やさまざまな職業訓練を受け、自立した生活ができる力を身につけています。
その他、路上生活を送る中で、生きる意味を問いつけた歌人による言葉が入ったイラスト、自殺未遂から立ち直った書道家の作品「春は遠くない」など、生きる喜びと他人への優しさがにじみ出た展示品があります。

P42 貧困

宝物を探して

「不可能なんていう言葉は、そう決めつける心の中にあるだけだ」
たった一人ではじめた青年がいた
骨と皮になって倒れていく友だち、無表情にうずくまる子どもたち
「無理だよ」
だれもが言ったがあきらめなかった
やがて驚異的な収穫増加で 7 千万人が
餓死から救われた
世界は彼をインド「緑の革命」の父・スワミナサン博士と呼ぶ

貧困と食料不足に立ち向かうケニアの女性がいた

苗木を植えて緑を増やす運動を始めた
「女性になにができる」とばかりにする人もいた
しかし多くの女性があとに続いてくれた
苗木を植えるたびに、彼女たちの中に「自信」が芽生え、生きる力が湧いた
ワンガリ・マータイ氏達が植えた苗木は、アフリカ全土に広がっている

「自分の家族を含め、数百万人が苦しむ厳しい貧困と闘おう」

そう決意して行動を開始したセネガル 15 歳の少年マラル

彼は絶対的貧困に取り組むグループ「ATD 第 4 世界」のメンバーとして
国連の会議に参加し、貧困の現状を訴える

若い世代に貧困と立ち向かうことを呼びかける

マラルの挑戦は今始まったばかり

ワンガリ・マータイ氏は語る

「他人に奉仕すれば、何事にもかえがたい特別な幸福が返ってくる」
宝物は希望をあきらめない人の心にあった

< 飢餓や極度の貧困とは？ >

飢餓は食料が十分でないため常に栄養不足状態にあること。極度の貧困とは食料だけでなく教育や仕事、医療、水、エ

エネルギーなど人間が生きていくうえで最低限必要なものを得られない状態のことをいいます。

<原因>

飢餓の原因は自然災害や貧困の蔓延、少ない農業生産量などに、極度の貧困の原因は天候や地理・地形などの自然環境や経済の低成長などにあります。これらは紛争や統治機関の機能麻痺、インフラの未整備などと複雑に絡み合い、悪循環を起こしています。

<世界の不平等>

実は、世界の総食料は皆にいきとどくだけの十分な量があります。ただ、その配分システムが不平等なために極端に得られない人びとが出てきているのです。これは食料だけではなく、水やエネルギー、医療などについても言えます。豊かな国にも貧しい人が、貧しい国にも豊かな人がいます。

<国際社会の動き>

2000年の国連ミレニアムサミットを受けてまとめられたミレニアム開発目標では、2015年までに1日1ドル未満で生活している人口と飢餓に苦しむ人口を半減させることが掲げられています。

P43 世界の貧困のデータ

5秒に1人の子どもが飢餓に関する原因で亡くなっている
毎年230万人もの人が、ワクチンで防げる病気で命を落としている
貧しい地域ほど地球温暖化や自然災害の被害を受けている

<世界の飢餓や極度の貧困で苦しむ人>

1990～2001年にかけて、アジアの極度の貧困層は9億3600万人から7億300万人に減少しましたが、アフリカでは逆に2億2700万人から3億1300万人に増加しました。また、飢餓人口はアジアもアフリカもともに増加しています。

<経済格差>

国家としても個人としても、一部のごく少数の富裕層たちが全体の過半数を占める富を所有しているのが現状です。人類の最も豊かな20%の人たちが全世界の消費の84%を独占しており、最も貧しい20%の人たちは1.4%を分け合っています。

<公正とは言えない貿易>

国際社会に対して経済的に開放的な政策をとる発展途上国は、徐々に貧困を

克服しつつあります。しかし先進国は、発展途上国が得意な農業などの分野において高い関税をかけるなど、発展途上国に大きな損失も与えています。

<発展途上国での教育>

発展途上国における教育とは先進国の「英才教育」ではなく、生活していくために必要な知識を教える教育が主です。たとえば汚れた手でものを食べたら病気になること、汚れている川や海には入らないこと、作物の育て方、栄養をバランスよく取ることなどです。

P44 HIV／エイズ

美しき連帯は今日もたたかう

自分の中で善と悪が闘っている
今日も体中の血液が「生きる」と止まることなく流れている
だから、恐怖に負けられなかった
黙っているわけにはいかなかった
このウィルスは治療によって共生もできるのだ

すべてが一瞬にしてなくなっていった
何よりも怖かったのは、病気に対する偏見だった
「悪魔の烙印」は簡単におされた

「HIV／エイズと闘うのだ。見えない魔性と闘うのだ」

善なる魂は連帯した
「一緒に闘おう」「大丈夫、1人じゃない！」
陽性者ネットワークはあっという間に地球をかけめぐった
不思議にも、国境も文化も宗教も言葉もらくらくと飛び越えていた
固い団結と友情が、一人ひとりに再生の力を吹き込んだ
運命をただ待つ者から
苦悩と痛みを共に分かち合い、希望を与え合うリーダーへと成長していった

バングラデシュのナスリーン氏は語る
「私たちが沈黙の殻を破り、力を合わせて社会の先頭に立てば世の中のHIV陽性者への偏見や差別をなくすことは可能です」
どこよりも美しい連帯が今日もまたウィルスと、偏見や差別と
そして、絶望と戦い続けている

<貧困、差別がHIV拡大の原因>

HIVに感染している人は3940万人を越えています。すでに亡くなった人は3000万人を越え、過去20年間の戦死者数の合計より多くなっています。地域的にはサハラ以南のアフリカが最も多くなっ

ていますが、近年のアジア諸国も深刻化しています。先進国は減少傾向にありますが、唯一増加傾向にあるのが日本です。エイズが広がる原因は、広範囲の貧困、人口の増加による国、地域の対策の遅れ、正しい知識がないための差別や偏見などにあります。

HIVに感染しても長期間エイズの発症を遅らせる治療薬が開発されましたが、普及率はまだほど遠いのが現状です。多くの陽性者は治療を受けられなかったり、就職、教育などの社会参加の機会を奪われたりするなどの人権侵害を受けています。たとえ感染がわかっている場合でも、家族に追放されたり、社会から隔離されたりすることを恐れ、知らせることができない人も大勢います。

<「発症する」とは？>

HIVが感染した時点ではエイズになったとは言いません。人により個人差があり、感染してからエイズに発症するまでは数年から数十年と幅があります。エイズは、HIVに感染した血液の輸血、母子感染、性行為、麻薬注射の回し打ち、医療従事者の事故以外の「日常生活」では感染しないことがわかっています。

P45 病気

すべてが「生きるための宝物」

1931年、ある村で高熱を出して倒れる人が続出した
翌日、高熱を出したものは、家からいなくなっていく
野球選手を夢見ていた少年、都会で新しい生活をはじめようとしていた女性
何も告げず、二度と帰ってこなかった
病気の名は「ハンセン病」。その名は当時、日本中を震撼させた
人々は知らなかった。いや、知らされていなかった
「ハンセン病」は自然治癒もあるほどの感染力の低い病であることを
「貧乏病」と呼ばれ、健康であれば伝染しないということ

自分達の「人間としての尊厳」を取り戻すために
患者たちは力を合わせて立ち上がった
戦いは長かった。でも、あきらめなかった

平成13年、国家は過去の誤りを認めた勝利だった。今、次のステージへ完全勝利を目指して尚も闘い続ける人々の姿がある

尊いその人達は語る

「手足に残る病気の跡はがんばって生きてきたあかしです
私も不自由な手足と身体を誇りと思い、
恥ずかしいとも思いません
人間には長所と短所もあります。
そのすべてが、生きるための宝物です」
“自分が抱えている、その全てが生きるための宝物”
21 世紀を担う子どもたちへのメッセージ
だった

< 構造的暴力から起きるその他の病 >
社会の構造により人々が病に陥る例は、
水俣病をはじめとする公害病やウィルス
に関する病、そして仕事や学校、家庭
でのストレスからくる、うつ病などの現代
病が挙げられます。

< 容貌、外見上の差別は他にもある >
遺伝、病気やけがなどが原因で、機能
的な問題の有無にかかわらず、個性的
(ユニーク)な容貌を持つユニークフェイス
と呼ばれる人たちも、他人との交流や
就職、恋愛、結婚、学校でのいじめ等、
社会生活で「生きづらさ」を感じていま
す。すれ違ったときに、「汚い」「気持ち
悪い」などの言葉をあびせられ、ツバを
かけられるときもあります。

< 人為的に人権が侵害された代表例の
ひとつ、水俣病 >
1956 年、熊本県水俣市で原因不明の
病が特定されました。ある企業の工場
廃水に含まれていた水銀に原因がある
とわかりましたが、企業側が見て見ぬふ
りをするので被害は拡大。長い間、被
害者側と企業をはじめ熊本県や国との
間で裁判が続きました。しかし 2004 年
の関西訴訟で被害者側が勝訴。水俣病
が広がった責任が、企業だけでなく政
府にもあることが認められました。

P46 ホームレス

人のために真剣に生きる

キラキラ光る黒い瞳が印象的だった
節くれてごつごつした手は日に焼けて
黒かった
その手でどれだけの人の背中をさすっ
てあげたのだろう・・・
よく微笑むその顔もまた、日に焼けて
浅黒く、深い皺がたくさん刻まれている
その皺の深さが、彼が立ち向かってき
た「人生」を何よりも物語っている

「一人一人と会う、これが本当の勉強
だと思う。人のために真剣に生きる。こ
れほどの充実感はない」

彼は 3000 人以上の“ホームレスとして生
きる人”、「野宿生活者」に会ったと言う
ある老人と温かいご飯を久しぶりに食べ
た翌日、老人は凍死
くやしかった

「野宿生活者といっても同じ人間。いい
人もいれば、悪いヤツもいます
表面ではなく、心が美しいかどうかなん
です
お金の前に大切なものが 100 以上ある
はずです」

圧倒的な生と死のドラマがいつも街の
片隅で繰り広げられている
存在そのものを否定され、言い知れな
い寂しさと恐怖がつきまとう

「心のケアに半年、体の治療に半年、
それから仕事のことを 1 年かけてやる。2
年はかけないと、自立への道は遠いと思
います」

明日もまた街角で誰かの傍らに寄り添っ
ているのだろう
彼は住所のない「家」に戻っていった。
彼もまた野宿生活者なのだ

< 野宿生活者を生み出す構造がある >
ホームレスと一般的に呼ばれることが多
い「野宿生活者」は、日本に 2 万 5 千人
以上。男性が圧倒的に多くなっていま
す。彼らを生み出す最大の原因は失業
です。バブルの崩壊とともに大量の失
業者が現れ、路上へと余儀なく追いや
られました。路上生活は常に危険と隣り
合わせです。特に真冬の路上生活は
非常に厳しく、餓死や凍死で亡くなる人
が少なくありません。

< 社会が生み出したすべての存在を照
らせ！ >

野宿生活者を路上から脱却させる法律
は、現行では生活保護法しかありませ
ん。65 歳以上の高齢野宿者であれば生
活保護の申請が認められています。が、
ほとんどの野宿生活者は住民票がなか
ったり稼働年齢であったりするため、保
護を受けられないのが現状です。しかし、
野宿生活者を入所させる民間の宿泊所
が設けられたり、行政窓口との折衷を行
ったり、仕事やアパート探しをしたり、保
証人になったりする市民団体が増えて
きています。

P47 自殺

闇と光のはざま

何かに必死につかまろうとしていた
どんなに力をこめてつかんでもずるず
ると落ちていくようだった
不安、恐怖、絶望、空白・・・心は幾
重にも巻きつけられ
太陽はもはや自分には関係なかった
「なぜ？ 自分が？」
こんな疑問だけが頭の中で回っていた
何度も想像した
どうやって死ぬかということ・・・

そんな時に出会った言葉
「善きことを一つでもできるうちは
勝手に人生から離れてはならない」

数えるのをやめてみよう
自分に何ができなくなったかを
自分の手からこぼれてしまった幸福のか
ずかずに
むしろ、自分にもまだできることがある
それだけを考えて生きてみよう

< 増える自殺率 >

日本では、自ら命を絶つ人は 7 年連続
で 3 万人を超えています。未遂者を含
めると、その 5～10 倍の人数に及ぶと言
われています。世界で第 10 位、先進国
のなかでは第 1 位です。近年、自殺の
問題はニートやフリーター、パラサイトと
呼ばれる若者も深刻ですが、最も自殺
の道を選ぶ人が多い年代は 50～60 年
代の男性です。その背景にはリストラや
失業、倒産など不況による人生の行き
詰まりや絶望感などが関係しており、個
人の問題から社会の構造的な問題だと
いわれるようになりました。「自殺は本人
の自由な意志から起こるではありません。
」多くの医師はそう語ります。「本人
は最後の最後まで『生きたい』と『死にた
い』との境目にいます。」しかし自殺は個
人の問題として取り上げられることが多
く、自殺に対するイメージの悪さが本人
および遺族への偏見、差別につながっ
ています。遺族に対しても社会的、経済
的、精神的支援が遅れていることが現
状です。

紛争のコーナーの出品物

被爆 2 世のカメラマン田中勝さんと原爆
計画者を父にもつ画家ベッツィさんがコ
ラボレーションした現代アートはまさに
平和の象徴です。海に沈む戦艦の上に
捧げるかのように折り鶴をもった大きな
手が差し伸べられている「あなたの手
の中に」は、田中さんがアメリカのパー
ルハーバーに沈むアリゾナ号を撮影し、折

り鶴と手をベツツイさんが描きました。折り鶴はアメリカと広島の子もたちが平和のメッセージを書き込んで作った巨大な折り鶴がモチーフに。子どもたちと、田中さん、ベツツイさんとの平和な未来への願いを込めた作品です。

原爆の凄まじさを感じる物品として、長崎の原爆で黒く焼け残った瓦や広島原爆時に熱線で溶けたガラス瓶を展示。熱線は3000～4000度に達し、街が一瞬にして火の海になったといわれています。瓦とガラス瓶は実際、手に触れることができます。

過酷な状況の中で希望とぬくもりを感じさせる、当事者の物品、生活用品なども展示しています。スーダンの難民キャンプで暮らす人が古いタイヤから作り出したゴムのサンダル。難民キャンプに暮らす人々は、誰もが何も持たずに逃げてきて、限られた生活物資の中で知恵を働かせながら工夫を凝らして暮らしています。この物品は手にとっていただけます。

ネパールの難民キャンプで作った葉っぱを縫い合わせて作ったお皿、コンゴの難民キャンプで作られたブリキの空き缶で作ったおもちゃ、木彫りの動物なども展示しています。

戦争、紛争の悲惨さ、残酷さを伝える地雷の模型や、子ども兵士がよく使用する小型銃カラシニコフの無稼働実銃なども出品します。アメリカの軍隊で実際に使われていた防弾チョッキは手にとれます。体に銃弾があたるのをふせぐため、中に鉄板が入っており、かなりの重量です。

P52 核兵器・テロ

湧き上がるエネルギー、清らかな魂は奪えない

「アイゴー(哀号)！」

広島市に原爆が落とされた時、張福順さんが聞いた母の悲鳴だった。在日コリアンへの差別、貧困、そして原爆被害

私らに何の罪がある。どうして半焼きにされるのか・・・

彼女もまた原爆による放射線で体を蝕まれた

何重にも縛り付ける差別は、生活に暗い影を落としていた

涙があふれ出た。「もう、だめだ」と何度も思った

不死鳥一ふとよぎった言葉だった

心の中で湧き上がるエネルギーが彼女を前進へと駆り立てた

戦争の悲惨さ、原爆の恐ろしさ、差別の

醜さを体験者として伝えたい

「力がないなら力をつけよう！ 知識がないなら、勉強しよう！」

50代で夜間中学・高校に学び、62歳で大学卒業

使命という金色の翼が輝き、大きくはばきたい

現在は高校教師、識字教育支援と多忙な日々を送る

彼女の願いは今、草の根の平和活動をする世界の青年たちに広がっている

<憎しみではなく希望を選ぶ人間へ>

現在の「戦争」は、名前も顔も知らず、罪もない人の生命を無差別に奪う、「テロ」へと姿を変えています。

「自分が母親として幸福を感じて、初めて子どもに幸福を与えられる。そうして初めて、子どもは“憎しみ”ではなく“希望”を選ぶ人間へと成長していくと、私は信じているのです。」

ウォールストリート・ジャーナル紙の新聞記者である夫・ダニエル氏をパキスタンで誘拐・殺害された、マリアヌス・パールさん。「復讐してやりたい」という衝動に駆られたことも…。しかし、“非人間的なテロへの本当の報復は、愛や慈悲・思いやりという人間性を持って立ち向かうこと”—そう我に返りました。今、事件後にうまれた息子アダム君とともに、幸福な心を築くことに挑戦し続けています。

<原爆>

原爆の投下により、1945年の12月までに広島で14万から15万人、長崎で7万4000人と合計で約21万人以上が亡くなっていきました。原爆に含まれる放射能は遺伝子までも破壊し、後遺症を与え、今なお多くの生命を奪い続けています。しかも、被爆者であることを理由に、結婚や就職の差別を受けたり、家族にもその差別が及ぶことがありました。その中には何万という朝鮮半島の人や中国人、アメリカ兵の捕虜もいました。

P53 紛争と地雷

あきらめるのはやめよう

限界は超えられる

「義足さえあれば、僕は走ることでできるのだ

・・・僕は走ることで一つのメッセージを世界の人に贈りたいと願っている」

『『限界』という概念を自分で作り簡単にあきらめるのは、やめようということ。

『限界』に挑戦することがいかにすばらし

く、自分を、世界を可能性に満ち溢れたものに変えていけるかということだ』『地雷と聖火』クリス・ムーン著

1998年、長野・冬季オリンピックで聖火ランナーとして疾走したクリス・ムーンさん。カンボジアで地雷撤去中に地雷を踏み、手足を吹き飛ばされ、右手と右足の一部がありません。事故のショックを持ち前のユーモアで跳ねのけ、彼はもう一度前進することを決めました。

<奪うことしかできない>

「兄と妹が別々に地雷を踏んだ。“運が悪かった”というけれど、悪いのは地雷を作り、それを使う人間の方だ。』『対人地雷 カンボジア』藤原健著
地雷を埋めた人はこういいます。「殺すためではなく、負傷させるためだ」と…。

一度埋められると、爆発するか除去されるまで見つからない地雷。最大の被害は、戦争後の平和の中で起きます。世界では22分に1人が、地雷によって傷ついています。

<世界を動かす善の連帯>

1992年、“地球上から一億個の地雷を一つ残らずなくす”ため、各国のNGOが立ち上がり、地雷禁止国際キャンペーンが誕生。この運動が大きくなると、カナダ政府の協力によって、対人地雷禁止条約が成立。地雷撤廃への固い決意にあふれる条約ができました。反政府勢力にも賛同させ、2005年7月の時点で145カ国が締約国となっています。

<国際刑事裁判所の創設>

紛争下で罪を犯した個人を裁くことが出来る国際的な常設の裁判所。女性や子どもは戦闘中に、レイプや集団虐殺、強制失踪(拉致)などの被害を受けます。けれどもこれまでは加害者個人を裁く、国際的な裁判所がありませんでした。そこで、世界1000以上のNGOが構成する、「国際刑事裁判所を求めるNGO連合」が立ち上がり、60カ国以上の批准を受け、2002年発効することになりました。

<強制的失踪/拉致>

突然、自分の意思に関係なく連れ去られること。その背景には、内戦や政治不安の中で、国家や政治組織が、敵対する人々を強制的に逮捕・誘拐・監禁している事実があります。強制的失踪/拉致の被害者の多くは、罪もない一般市民。しかし「強制的失踪」は国際刑事裁

判所規程で、「人道に対する罪」として認められるようになりました。

P54 世界の核兵器・地雷・その他兵器のデータ

<世界に残存する核>

現在、世界に現存する核兵器はロシア 16000 発、アメリカ 10310 発、中国 390 発、フランス 350 発、イギリス 200 発、合計約 3 万発です。この全ての核兵器が爆発したら、地球上の人類全員を何度も殺すことができる力に相当します。広島・長崎の原爆投下以降、世界各地で飽くことなく核兵器の開発が行われてきました。そして、地球上で2000回を越す核実験が行われてきました。

<核兵器製造の背景にある問題>

核兵器製造に不可欠なウラン。富める国が核兵器を開発するなか、ウランを採掘させられるのは貧しい国のなかの最も貧しい人々。もちろん、放射能による環境汚染や被爆の影響を一番に受けるのも彼／彼女らです。他者の不幸の上に造られるのが、人を殺すことしかできない核兵器の実態です。

<地雷>

イラン 1600 万個、アンゴラ 1500 万個、アフガニスタン 1000 万個、カンボジア 800 万個、ボスニア・ヘルツェゴビナ 300 万個、モザンビーク 200 万個、クロアチア 200 万個、スーダン 100 万個、ソマリア 100 万個、エチオピア 50 万個、他にもクウェート、朝鮮半島、中国、ベトナムにも地雷が埋設されています。

<クラスター爆弾>

一つの大きな爆弾の中にジュース缶くらいの子爆弾が 200 個ほどつめられ、投下時に小爆弾が広範囲に広がる爆弾。さらに、地上に落ちた不発弾の形や色は子どもの目を引き、二次被害を起こしていきます。現在、クラスター爆弾の不発弾は、新たな地雷問題となっています。

<劣化ウラン弾>

戦車さえも突き抜けるほどの威力を持つ、放射性物質ウランを含む爆弾。戦車を狙って使用されるとはいえ、劣化ウラン弾の使用は、人々を被曝させています。このため、劣化ウラン弾が使用された地域では近年、癌や奇形など人体への影響が現れています。また、劣化ウラン弾の放射性物質は土壌に浸透しやすく、土や水を汚染し、その威力が消えるまでに数億年にかかるといわれます。

<AK47>

多くの紛争地域で子ども兵が使用している小銃の一つ。旧ソ連のミハイル・カラシニコフ氏によって作られた自動小銃。氏の名前を持つカラシニコフ銃(別名AK47)は、約 4 キログラムと軽量で部品も 8 個からなり、子どもでも持ち運びや組み立てが出来ます。

P55 紛争と難民

生きる力を再び

照りつける太陽が大地を赤く染めて、燃え上がっているように見える
気温 50 度—信じられないような灼熱の赤道にどこまでも続く緩やかな黒い帯不思議な曲線を描くその黒い線はよく見ると人びとの連なりだった
黙々と前進するその人々は「難民」と呼ばれていた

たどり着いた場所は決して安住の地ではない
けれども、再生の力を取り戻すため、精一杯今日を生きる

「この人を何とか助けたい」難民仲間の治療にあたる、元医師や看護師たち
「私一人で、この子を育てる」服を作って売り、ミルクを買うチャイルド・マザー
「ずっと一緒に暮らしていこう」地元住民と難民との共生社会が築かれる地域も

1 人では立ち上がれない時もある
多くの人たちの協力が希望を生み出していく

空爆と避難を何度も経験したアフガニスタンの青年は語る
「夢を持ったなら離さない。環境や状況に「負けない心」が今も僕を支えている」
彼が働く学校は年齢制限がない
少年・少女からお年寄りまで、瞳を輝かせて勉強している
何度も絶望のふちに立たされながら、夢をあきらめない心に再生の力は蘇る

<紛争下の難民>

今日も、世界の多くの国で内戦や紛争、迫害が続いています。難民の 80% 近くは、戦争で夫や子どもを失った、社会的にも弱い立場にある女性や子ども、高齢者です。中には、民族浄化を目的としたレイプや避難途中に性暴力を受けて、12~13 歳で望まない妊娠をし、チャイルド・マザーとして生きる女性もいます。生き延びた人々を待ち受けているのは、わずかな食糧と水しかないキャンプでの不自由な生活。そして、飢餓や蔓延す

る病気との戦いです。

<日本の難民>

日本にも難民として暮らす人がいます。平和な国、自由に物事を話せる国で暮らしたい…。そんな希望を持ってやって来ました。通信や交通が緊密化した現在、各国で身の安全を求める難民の数が増加。法務省によれば、日本でも 1982 年~2003 年で、3118 人の人が難民として認められることを希望し、うち 315 人が認められてきました。UNHCR への資金拠出国第二位の日本。しかし難民の受け入れはなかなか進んでいません。

P56 世界の紛争・難民のデータ

紛争は今、この瞬間も起きている

<最近の紛争・テロ一覧>

アルジェリアのイスラム原理主義運動、シーク教徒自治運動、イギリス地下鉄同時爆発テロ、西サハラ紛争、シエラレオネ内戦、リベリア内戦、ナイジェリア産油地帯紛争、チャド内戦、スーダン内戦、エチオピア・エリトリア国境紛争、ソマリア内戦、ルワンダ内戦、ブルンジ内戦、コンゴ(旧ザイール)内戦、アンゴラ内戦、カシミール紛争、ヒンドゥー至上主義運動、スリランカ民族紛争、ミャンマー少数民族独立運動、新疆ウイグル独立運動、チベット独立運動、中国・台湾問題、朝鮮半島問題、南沙群島領有問題、ミンダナオ紛争、アチェ独立運動、カリマンタン島民族対立、マルク州宗教対立、イリアン・ジャヤ独立運動、ニュー・カレドニア独立運動、ソロモン諸島内戦、フィジー民族対立、アメリカ同時多発テロ、メキシコ先住民族解放運動、コロンビア反政府運動、ペルー反政府運動、北アイルランド紛争、バスク独立運動、コンゴ紛争、マケドニア紛争、ドニエストル紛争、グルジア紛争、チェチェン紛争、ナゴルノ・カラバフ紛争、タジキスタン内戦、アフガニスタン内戦、クルド独立運動、イラク戦争、キプロス紛争、パレスチナ紛争、エジプトのイスラム原理主義運動

<難民>

現在、世界にいる難民は約 4000 万人
難民といってもタイプは様々です。
難民…国境を越えて、他国に逃れた人々。1190 万人
第三国定住者…本国で続いている迫害のために帰国を望まない、あるいは帰国できない人。8 万 3700 人
庇護希望者…自国を逃れ他国で保護を求め、法的に難民として認められることを待つ人。83 万 9200 人

国内避難民…国境を越えず、国内の安全な場所に避難した人。2360万人
帰還民…故郷へと戻ったものの、まだ生活の再建に助けを必要とする元難民や避難民。149万4500人

国際人権保障のコーナーの出品物

国と国との連合体である国連創設をはじめて唱えたカントの著作『永久平和論』は1795年発刊の初版本です。わずか9つの指針と2つの補説からなる永遠の平和への願いが凝縮した一書です。他にも、権利意識についての古典であるイェーリングの著作『権利のための闘争』の当時発行された書籍も出品します。

また、国連郵便局発行の記念切手各種。国連切手は、ニューヨークの国連本部とジュネーブとウィーンの欧州本部の郵便局から発送される郵便物に限って、郵便目的に使用することができる、大変に珍しい切手です。

さらに、INF条約記念軍縮メダルは、INF条約によって廃絶された核ミサイルの破片から作られており、東西冷戦の終結のために戦った人物に、ということで、通し番号の49番目が池田SGI会長に贈られました。

P62 平和のための世界のルール

すべての人の人権をまもるため、未来への希望のメッセージがここにある数々の時代をへて、人権のために尽くした人々の苦難、犠牲、英知、歓喜の結晶—国際人権保障
今、この瞬間も進化し続ける

<新しいアクターの台頭>

国連をはじめとする国際社会において、より直接的に一人一人の意思を反映させるために、NGOの果たす役割が重視されており、人権の実現におけるパートナーシップの強化が図られています。また、近年世界的な影響力を増している多国籍企業による人権の遵守も「企業の社会的責任」として注目されており、人権や環境保護などを内容とする国連と企業による「グローバル・コンパクト」も採択されています。さらに、各国では、自治体による独自の取り組みや、国内人権機関(人権委員会やオンブズ・パーソンなど)による人権の実現や促進が期待されています。

<新しい人権課題>

21世紀を迎えた国際社会は、経済を中心としたグローバリゼーションの進行に

よる経済格差の拡大や、情報技術、バイオ・テクノロジーなどの科学技術の発展にともない、プライバシー保護や監視社会問題、クローン技術などの生命倫理上の諸問題など、人権をめぐる新たな課題にも直面しています。一方で、死刑制度の是非や差別表現と表現の自由など、引き続き議論が求められています。

<人権教育のための世界プログラム>

国際的な人権保障において、人権教育の発展・推進は重要な柱の一つです。国連は、普遍的な人権文化を構築するために、1995年からの「人権教育のための国連10年」を受け継ぎ、2005年より世界的な人権教育推進のための取り組みとして、「人権教育世界プログラム」を開始しました。人権侵害に対処するだけでなく、一人一人の心を育てていくことを重視し、プログラムの第1段階(2005年から2007年)は、初等・中等教育における人権教育に焦点をあてています。

P72 おわりに

「21世紀 希望の人権展」いかがでしたでしょうか？

悪いところや難しかったところはどんどんアンケートに書いたり、スタッフに話して下さい。どれも大切な意見として、きちんと受け止め、この展示をよりよいものへ育てていきたいと思えます。もちろん「よかった」「感動した」などの感想は何よりの励みです。

この展示はあらゆる当事者と支援団体への地道なインタビューや協力から、約一年がかりで完成しました。

どの方々も深刻な状況にあることは否定できませんが、そこから発せられる言葉は、恨みやグチでなく、「希望の詩」でした。その言葉にどれほど、制作者の私たちが励まされたか分かりません。

これらの方々とともに、来場してくださった全ての皆さんに心から「ありがとうございます！」と申し上げ、結びの言葉とします。

絵本のコーナーの出品物

ここは幼児も楽しめる「こころにひびくものがたり」と題した絵本コーナーです。自分や友だち、そして、この地球がどれ

ほどかけがえのないものか、を伝える絵本や、イランやスウェーデンなど外国の珍しい、触って楽しむバリアフリー絵本(様々な人が共遊できる)を約400冊、手にとって読み、聞かせることができます。

P73 主催団体紹介

創価学会と人権について

平和の母は人権 人権を築くのは教育

創価学会インタナショナル(SGI)は、世界190カ国・地域に在住する約1200万人の会員とともに、仏法の間人主義を基調とした平和・文化・教育運動を推進しています。SGIは1983年、国連経済社会理事会のNGOとして、また日本の創価学会は1981年、国連広報局、国連難民高等弁務官事務所のNGOとして登録されました。

創価学会は1930年11月18日、牧口常三郎(まきぐちつねさぶろう。初代会長)と戸田城聖(とだじょうせい。第2代会長)によって創立。1943年7月、国家神道をもって思想統制を行った軍部権力に対し、断固拒否をした牧口会長、戸田理事長が不敬罪で投獄。機関紙は廃刊に追い込まれました。牧口会長は獄中にあっても、この戦争が決して聖戦ではなく国民にとって不幸であることを一貫して主張しつつ翌年11月18日、73歳で獄死しました。

1945年、出獄した戸田は戦後、壊滅した創価学会の再建を決意。1957年9月8日、戸田は5万人の青年集会で誰であろうと原水爆使用を永遠に禁止すべきである、との宣言を発表。創価学会の平和運動の原点となりました。

1960年、池田大作(いけだだいさく)が第3代会長に就任。ゆるぎない平和確立にむけて、徹底した対話と行動を続けてきました。草の根運動のリーダーとして活動する過程で、検察による事実無根の起訴により2週間にわたる入獄と、4年半にわたる裁判を経て、無罪を勝ち取る闘争も経験しています。池田は自ら世界50カ国以上を訪問し、1600回以上にわたり世界の指導者・文化人と語り合いました。1983年から毎年、幅広い分野にわたり国際社会に向けて「平和提言」を発表しています。本年より開始される「国連・人権教育のための世界プログラム」の提唱者の1人でもあります。

池田SGI会長の平和行動に呼応し、創価学会青年部は「現代世界の人権」展

を世界 8 ヶ国 40 都市で開催。これには累計 50 万人が見学するなど、他にも展示、講演、出版などを通して平和のメッセージを発信してきました。また、女性平和委員会でも「子ども的人権」展を制作。国内の 55 会場で開催してきました。